



Medical

今シーズンの流行はどうなる!? 新型インフルエンザにも効果のある マルチワクチンが登場!

ナビゲーター



写真家・医療ジャーナリスト
伊藤 野也さん

いとう・しゅんや 出版社写真部勤務を経て、'82年にフリーカメラマンに。父親の医療事故をきっかけに医療問題に深い関心を持ち、全国の医療現場を精力的に取材。オピニオンリーダーとして多くの情報を発信する。フジテレビ系「とくダネ!」の医療特集では出演の傍ら企画・監修も担当。

ワクチン接種における 社会的意義とは?

'09年、世界中で大騒ぎになった新型インフルエンザ。ワクチン不足問題など、半ばパニックに陥ったことは、記憶に新しいのではないのでしょうか。そんな中、'10年もインフルエンザの季節が到来。10月1日から、ワクチンの接種が始まっています。

そもそもインフルエンザとは、どのような病気なのでしょう。中には、ちよつとひどい風邪、くらいに考えている人もいるかもしれませんが、実は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する

医療に関する法律」で、国民の健康に大きな影響を与える恐れのある「5類感染症」に定められている伝染病。38℃以上の急な発熱や悪寒、頭痛、関節痛などの症状が特徴で、基本的に抗生物質が効かない、ウイルス性の疾患です。ワクチンは毎年、全国76か所の衛生研究所で行われる定点観測や遺伝子の解析などで、流行する型を予測してつくられます。発症や重症化をある程度抑える効果が認められています。ワクチンを接種したからといって、100%感染しないという保証はありません。今シーズンは、冬に流行する季節

Column

インフルエンザQ&A

Q 今シーズンのインフルエンザワクチンの数は足りる?
A 十分足りります。

厚生省によると、マルチワクチンは約5800万回分、新型インフルエンザのみに効果のあるワクチンは7300万回分以上を用意。平成21年度のワクチン接種回数が新型と季節性を合わせて約6100万回だったことからみて、十分量を確保しているという。

Q 昨シーズンは、なぜワクチンが不足したの?
A 日本は「ワクチン後進国」という実情があるから。

日本ではかつて、副作用が問題になったり需要に波がある、といった背景から、ワクチン分野からは大手製薬会社が撤退。小規模の4社が開発を担ってきた土壌がある。そのため昨シーズンは、新型インフルエンザワクチンの生産を間に合わせられない、脆弱な体制が明らかに。今年、第一三共など大手が参入を表明し、ワクチン事業の発展に期待が高まっている。

インフルエンザと比較的 相性のいい解熱剤って…?

- イブプロフェン
 - アスピリン
 - フェルピナク
 - インドメタシン
 - …etc.
- アセトアミノフェン

高熱の出るインフルエンザでは解熱剤を使いたいと思う人も多いはず。でも、解熱剤との相性には要注意! 市販の解熱鎮痛剤にはほとんどといっていいほど含まれるイブプロフェンやアスピリンなど、NSAIDs、と呼ばれる非ステロイド系消炎鎮痛剤は小児はすべてNG。大人も注意が必要。解熱剤は飲まないほうがよいが、もし服用するときはアセトアミノフェン。

発症したら診察を受け、ゆっくり体を休めることが第一。また、普段から免疫力を高め、予防に努められることが、ステキな大人の条件ではないでしょうか。

Key Words

【5類感染症】

感染力と罹患した場合の重篤性から、危険性の高い順に1〜5類に分類したものが調査を行い発生・拡大を防止すべき感染症と定められている。インフルエンザや風しん、エイズ(HIV)などがこれに分類される。

【インフルエンザ脳症】

インフルエンザに感染し、発熱時に発症することが多い急性疾患。けいれんや意識障害などの神経障害を伴い、後遺症が残ったり死に至ることもある。子供がかかる病気と思われがちだが、大人の罹患率も決してゼロではない重大な疾患。(厚生労働省「インフルエンザ脳症ガイドライン」より)

感染に注意すべきは、主に幼い子供や持病のある人、高齢者など社会的弱者といわれる人や妊婦など。ワクチン接種には、感染の拡大を防ぎ、社会的弱者を守るという社会防衛の目的もあるのです。**意外な盲点!? 解熱剤とインフルエンザの相性**

もし発症しても、健康な人は基本的に医療機関を受診し、家で寝ていれば治るもの。ただし、熱が高いからといって、自己判断で市販の解熱剤などを服用するのは非常に危険! 意外と知られていませんが、インフルエンザと解熱剤の相性は実は問題なのです。小児がインフルエンザ発症中にNSAIDsと呼ばれる、非ステロイド系消炎鎮痛剤を服用すると、意識障害を伴う「インフルエンザ脳症」を引き起こす可能性がある、と厚生省の調査でも明らかになっています。服用する際は、比較的安全といわれる「アセトアミノフェン」以外は原則禁忌。また大人も例外ではなく、過去にインフルエンザにかかった40代の男性が、アスピリン製剤などを使用して死亡したという事例も。そもそも発熱は体内のウイルスを攻撃する免疫機能。熱を下げることでかえって症状が長引くことがあるのを忘れてはいけません。

